

指定管理者評価シート

事業名	エレクトロニクスセンター運営管理費	所管課(電話番号)	経済観光局国際経済戦略室 IT・クリエイティブ産業担当課(211-2379)
-----	-------------------	-----------	--

I 基本情報

1 施設の概要			
名称	札幌市エレクトロニクスセンター	所在地	厚別区下野幌テクノパーク1丁目1番10号
開設時期	1986年12月22日	延床面積	4,013.51㎡
目的	電子計算機及び電子計算機システムの利用に係るプログラム開発に必要な電子計算機の機能及び施設などを提供することにより、市内企業の経営の合理化及び技術の向上を支援し、本市経済の振興を図ることを目的とする。		
事業概要	エレクトロニクス関連企業の研究開発活動を支援する研修室、会議室、食堂、講堂、駐車場などの共同利用施設や機材の提供、高度情報通信人材の育成・活用支援機能の提供など		
主要施設	会議室(6室)、研修室、多目的ホール、講堂		
2 指定管理者			
名称	一般財団法人さっぽろ産業振興財団		
指定期間	平成26年4月1日～平成30年3月31日		
募集方法	非公募 非公募の場合、その理由：当センターは札幌市におけるIT産業振興の中核となる施設であり、指定管理者にはITに関する高度の知識が求められるほか、IT企業と食・バイオ関連企業との連携による新たなビジネスを創出するため、IT企業、食・バイオ関連企業及び業界団体とのネットワークを有している必要がある。運営管理にあたっては市内IT企業の現状を常に把握し、将来的にも札幌の基幹産業として発展させていくため、長期的な視野に立ち、知識やノウハウを蓄積させ、継続的な事業運営を行うことが求められることから、非公募としたもの		
指定単位	施設数：1施設 複数施設を一括指定の場合、その理由：		
業務の範囲	施設維持管理業務、貸館業務(利用料金制度)、新しい技術やサービス等に係る人材、企業の育成に関する業務、IT産業による他産業の高付加価値化のために必要な業務など		
3 評価単位	施設数：1施設 複数施設を一括評価の場合、その理由：		

II 平成28年度管理業務等の検証

項目	実施状況	指定管理者の自己評価	所管局の評価								
1 業務の要求水準達成度											
(1)統括管理業務	<p>▽ 管理運営に係る基本方針の策定</p> <p>これまで蓄積してきた管理運営ノウハウを生かした効率的な施設管理業務を行うとともに、当財団が有する産学官のネットワークや、企業発展の各ステージに応じた最適な支援策を総合的に提供できることなどの強みを生かした事業を展開することにより、センター運営による効果を最大限に高めていくという基本方針のもと、経費削減も図りつつ効果的かつ効率的な事業運営を行った。</p> <p>▽ 平等利用に係る方針等の策定と取組実績</p> <p>公の施設であるセンターの運営に当たっては、正当な理由なく市民の施設利用を拒んだり、施設利用について不当な差別的取扱いをしてはならないと規定する地方自治法第244条第2項及び第3項を遵守するとともに、札幌市エレクトロニクスセンター条例の趣旨に従い、市民の平等利用を確保した。</p> <p>▽ 地球温暖化対策及び環境配慮の推進</p> <p>エネルギーの使用の合理化に関する法律を遵守し、センターにおけるエネルギー使用を適切に管理した。</p> <p>また、冷暖房温度管理の徹底を図るため、夏季・冬季にエコスタイルを実施し、センター利用者や入居者に対しても、館内のポスターの掲示などにより、エコスタイル推進のPRを行った。</p> <p>さらに、部分的な消灯の励行、電子メールを利用した文書情報の共有を行い、印刷出力を節約した。</p> <p>▽ 管理運営組織の確立(責任者の配置、組織整備、従事者の確保・配置、人材育成)</p> <p>センターの管理運営業務に関して統括的に責任を負う者を1名配置し、その職務代理者を置いた。また、センターの管理運営業務を適切に行うため、管理運営に係る組織図を作成し、緊急時の連絡系統、その他必要な内容を規定した。</p> <p>管理業務の従事者に対しては、業務上必要とされる研修、指導教育を実施し、サービスの維持・向上を図り、適切な施設管理を行った。</p> <p>▽ 管理水準の維持向上に向けた取組</p> <p>センター利用者のニーズに柔軟に対応し、安全性、効率性、その他センターの管理水準を維持・向上するため、各業務について適宜見直しを行い、改善を図った。</p> <p>▽ 第三者に対する委託業務等の管理(業務の適正確保、受託者への適切監督、履行確認)</p> <p>再委託に際しては、札幌市に準じた指名競争入札などの委託契約方式を採用し、公の施設として公正中立な対応を行った。また、複数年契約などにより、管理費などの経費削減を図っている。</p> <p>再委託する業務仕様書については、センターの管理運営における市民サービスの向上について配慮し、利用者の安全を十分に確保した。</p>	<p>これまで培ってきたノウハウを最大限に活用し、適切な管理運営を行うことができた。</p> <p>日々、OJT等による職員への指導を実施しており、法令遵守の徹底を図っていることから、問題、事故等の発生もなかった。</p> <p>アンケート調査の実施や個別のヒアリング等により、随時利用者のニーズを把握し必要な改善を行っていることから、今年度も特段の苦情等を受けていない状況にある。</p> <p>また、札幌テクノパーク協議会とともに厚別警察署や関係機関と連携、調整を行い、テクノパークの冬期間一方通行やバス停前の除排雪等を実施している。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>さっぽろ産業振興財団はエレクトロニクスセンター開設時から施設管理業務を行っており、平成18年からは指定管理者として管理業務を実施している。この間に蓄積されたノウハウを活かし、施設運営を円滑に行っている。また人材育成やセルフモニタリングやアンケートなど、施設運営の改善のための取組も実施されており、評価している。</p>	A	B	C	D				
A	B	C	D								

	<p>▽ 札幌市及び関係機関との連絡調整(運営協議会等の開催)</p> <table border="1" data-bbox="379 185 981 943"> <tr> <th data-bbox="379 185 544 226">開催回</th> <th data-bbox="544 185 981 226">協議・報告内容</th> </tr> <tr> <td data-bbox="379 226 544 394">第1回 【8/30】</td> <td data-bbox="544 226 981 394">○会議室等の貸室の稼動状況 ○光熱水費等経費の状況 ○施設の修繕等維持管理の状況 ○自主事業の進捗状況</td> </tr> <tr> <td data-bbox="379 394 544 568">第2回 【12/26】</td> <td data-bbox="544 394 981 568">○会議室等の貸室の稼動状況 ○光熱水費等経費の状況 ○施設の修繕等維持管理の状況 ○自主事業の進捗状況 ○利用者アンケートの状況</td> </tr> <tr> <td data-bbox="379 568 544 743">第3回 【3/29】</td> <td data-bbox="544 568 981 743">○会議室等の貸室の稼動状況 ○光熱水費等経費の状況 ○施設の修繕等維持管理の状況 ○自主事業の進捗状況</td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="379 743 981 943"> <p><協議会メンバー> 札幌市:IT・クリエイティブ産業担当課長、IT産業担当係長、IT産業担当係職員 指定管理者:情報産業振興部長、事業企画課長、事業推進課長、施設調整担当課長</p> </td> </tr> </table> <p>▽ 財務(資金管理、現金の適正管理)</p> <p>札幌市が定める規定に準じて財務及び会計に関し必要な事項を財務会計規程に定め、経理業務については、当該規程のほか、法令、公益法人会計基準に基づき適正に行った。 また、定期内部監査、外部監査人の監査を実施した(毎年度実施予定)。</p> <p>▽ 要望・苦情対応</p> <p>センターにて苦情受付簿を作成し、苦情内容の確認と迅速かつ適切な対応を行うことができる体制を整えている。</p> <p>▽ 記録・モニタリング・報告・評価(記録、セルフモニタリングの実施、事業報告、札幌市の検査等への対応、自己評価の実施)</p> <p>本業務の実施に関する記録・帳簿などを整備、保管し、セルフモニタリング、事業報告、事業評価を行っている。</p>	開催回	協議・報告内容	第1回 【8/30】	○会議室等の貸室の稼動状況 ○光熱水費等経費の状況 ○施設の修繕等維持管理の状況 ○自主事業の進捗状況	第2回 【12/26】	○会議室等の貸室の稼動状況 ○光熱水費等経費の状況 ○施設の修繕等維持管理の状況 ○自主事業の進捗状況 ○利用者アンケートの状況	第3回 【3/29】	○会議室等の貸室の稼動状況 ○光熱水費等経費の状況 ○施設の修繕等維持管理の状況 ○自主事業の進捗状況	<p><協議会メンバー> 札幌市:IT・クリエイティブ産業担当課長、IT産業担当係長、IT産業担当係職員 指定管理者:情報産業振興部長、事業企画課長、事業推進課長、施設調整担当課長</p>			
開催回	協議・報告内容												
第1回 【8/30】	○会議室等の貸室の稼動状況 ○光熱水費等経費の状況 ○施設の修繕等維持管理の状況 ○自主事業の進捗状況												
第2回 【12/26】	○会議室等の貸室の稼動状況 ○光熱水費等経費の状況 ○施設の修繕等維持管理の状況 ○自主事業の進捗状況 ○利用者アンケートの状況												
第3回 【3/29】	○会議室等の貸室の稼動状況 ○光熱水費等経費の状況 ○施設の修繕等維持管理の状況 ○自主事業の進捗状況												
<p><協議会メンバー> 札幌市:IT・クリエイティブ産業担当課長、IT産業担当係長、IT産業担当係職員 指定管理者:情報産業振興部長、事業企画課長、事業推進課長、施設調整担当課長</p>													
<p>(2)労働関係法令遵守、雇用環境維持向上</p>	<p>▽ 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上</p> <p>札幌市が定める労働関係規程に準じて、就業規程、給与規程、退職手当支給規程、再雇用に関する規程等を整備するとともに、公益通報者保護規程を整備することで、団体の自浄作用を高め、コンプライアンス(法令遵守)経営による社会的な信頼を確保している。</p> <p>休暇等の諸制度に関しては、札幌市に準じた取組を実施しており、職員の働きやすい環境整備を進めている。特に、「子どもを生き育てやすい環境づくり」の実現のため、育児休業等の取扱いに関する要綱を制定し、短時間勤務や育児休業取得を可能にするなど、ワーク・ライフ・バランスの推進に取り組んでおり、札幌市より取組推進宣言企業として認証されている。</p> <p>また、効率的な業務遂行が可能となるよう、各拠点(産業振興センター、ICC、中小企業支援センター、エレクトロニクスセンター)に設置している端末から、職員本人のパソコンへログインできるよう、ネットワークを整備している。</p>	<p>労働関係法令に基づく就業規則その他の必要な規定などを整備し、必要な届出を監督官庁に行うなど、雇用環境の維持向上に努めた。また、当財団は、職員の多様な価値観や働き方を尊重し、各個人がその能力を最大限発揮できるよう、適切な職務と働きがいのある職場環境を整備している。</p>	<table border="1" data-bbox="1236 1480 1449 1525"> <tr> <td data-bbox="1236 1480 1302 1525">A</td> <td data-bbox="1302 1480 1367 1525">B</td> <td data-bbox="1367 1480 1433 1525">C</td> <td data-bbox="1433 1480 1449 1525">D</td> </tr> </table> <p>関係規定の整備によりコンプライアンス経営に積極的に取り組んでいる点を評価する。また、職員のワークライフバランス向上に資する休業制度の導入や、ネットワークを活用した効率的な業務環境の構築など、雇用環境向上に関する取り組みを推進している点についても評価している。</p>	A	B	C	D						
A	B	C	D										

<p>(3)施設・設備等の維持管理業務</p>	<p>▽ 総括的事項(利用者の安全確保、市民サービス向上への配慮、連絡体制確保、保険加入)</p> <p>センターの管理運営業務に関して統括的に責任を負う者を1名配置し、その職務代理者を置くことで、安全確保、サービスの向上に努めている。また、センターの管理運営業務を適切に行うため、管理運営に係る組織図を作成し、緊急時の連絡系統、その他必要な内容を規定している。</p> <p>さらに、損害賠償保険に加入することで、事故に対する対応ができるようにしている。</p> <p>▽ 施設・設備等の維持管理(清掃、警備、保守点検、修繕、備品管理、駐車場管理、緑地管理等)</p> <p>施設、設備等の維持管理業務の実施に当たっては、関係法令の規定に基づき、施設、設備等の全般的な機能を良好に維持管理し、運用した。</p> <p>特に、竣工から30年以上が経過した建物であることから、施設の経年による劣化状況の把握に努め、優先すべき修繕などを合理的に選択し、施設の長寿命化を図っている。</p> <p>また、28年度の札幌市監査委員による監査において、産業廃棄物処理の委託に関する事務、修繕等の委託業務に関する手続きについて指摘を受けたため、関係職員による研修の実施、委託業者への指導、チェック体制の強化を図るなど再発防止策を講じた。</p> <p>▽ 防災</p> <p>消防法に基づき、センターにおける防火管理業務について必要な事項を定め、人命の安全を確保するとともに、火災などによる被害を軽減することを目指した。</p>	<p>これまでの施設運営のノウハウを有効に活用し、安心・安全で効率的な維持管理に努めている。</p> <p>特に、省エネの取り組みの推進により光熱水費の節減によるコストの削減や環境負荷の低減を図った。</p> <p>また、施設の劣化や破損状況を把握し、優先すべき修繕等を合理的に選択して実施している。</p> <p>知識不足・認識不足から、監査で事務上の不備を指摘されたが、指摘を契機により一層、関係法令等に留意し、所定の手続きを経た適正な事務の執行に努めるとともに、安心・安全で効率的な施設の維持管理を行っていく。</p>	<table border="1"> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> <tr> <td colspan="4"> <p>すでに長期間が経過した施設であることから、突発的な故障・不具合が慢性的に発生している。これに対し、一級建築士資格を持つ民間OBを施設管理担当として配置することで、迅速かつ適切な対応が行えている点を評価している。災害に関しても特に重大なものは発生しておらず、目立った事故等の発生も無いことから、安全な施設運用が行えていると評価している。一方で業務委託に関しての監査の結果については、これを真摯に受け止め、今後適正な管理業務の執行に努めていきたい。</p> </td> </tr> </table>	A	B	C	D	<p>すでに長期間が経過した施設であることから、突発的な故障・不具合が慢性的に発生している。これに対し、一級建築士資格を持つ民間OBを施設管理担当として配置することで、迅速かつ適切な対応が行えている点を評価している。災害に関しても特に重大なものは発生しておらず、目立った事故等の発生も無いことから、安全な施設運用が行えていると評価している。一方で業務委託に関しての監査の結果については、これを真摯に受け止め、今後適正な管理業務の執行に努めていきたい。</p>			
A	B	C	D								
<p>すでに長期間が経過した施設であることから、突発的な故障・不具合が慢性的に発生している。これに対し、一級建築士資格を持つ民間OBを施設管理担当として配置することで、迅速かつ適切な対応が行えている点を評価している。災害に関しても特に重大なものは発生しておらず、目立った事故等の発生も無いことから、安全な施設運用が行えていると評価している。一方で業務委託に関しての監査の結果については、これを真摯に受け止め、今後適正な管理業務の執行に努めていきたい。</p>											
<p>(4)事業の計画・実施業務</p>	<p>▽ 広報業務(施設のPR及び情報提供、施設の特性発揮、札幌テクノパーク協議会及び地域住民との連携)</p> <p>札幌市と連携しながら、利用者となる企業及び社員向けに、パンフレット、ホームページ、関連イベントでのPR活動などを通じて広報活動を行った。特に平成28年度はテクノパーク開設30周年にあたり、札幌テクノパーク協議会等と連携し、記念フォーラムなどのイベントを開催した。例年開催されている「テクノパークフェスタ」でも様々な企画があり、前年の2.5倍となる約250名の来場があった。</p> <p>▽ 札幌テクノパークの管理業務</p> <p>テクノパーク内案内板の管理(点検や記載内容の削除・追加等)やロードヒーティングの維持管理(定期点検や巡回等)を実施したほか、冬期間の周回道路一方通行による安全な通行の確保、冬期間のバス待合場所の設置など、テクノパーク全体の機能向上・環境改善を図るための取り組みを実施した。</p>	<p>今後とも、札幌市との連携を図りながら、積極的で効果的なPRに努めていきたい。</p> <p>また、テクノパークの管理業務を適切に実施することができたので、引き続きテクノパーク全体の機能向上・業務改善に資するよう適切な管理を行っていきたい。</p>	<table border="1"> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> <tr> <td colspan="4"> <p>財団が持つIT企業やクリエイター等とのネットワークを活用した事業と連携することで効果的な施設の運営を行っており、そのためのPR活動も積極的に行っている点を評価している。特にテクノパーク協議会等と連携して実施したテクノパーク30周年記念フォーラムは、エレクトロニクスセンターのPRにおいて大きな効果をもたらしたと評価できる。テクノパーク管理にあたっては、外部団体や委託先と適切に連携を行い、雪への対応等を含め通年で適切な管理業務を遂行している。</p> </td> </tr> </table>	A	B	C	D	<p>財団が持つIT企業やクリエイター等とのネットワークを活用した事業と連携することで効果的な施設の運営を行っており、そのためのPR活動も積極的に行っている点を評価している。特にテクノパーク協議会等と連携して実施したテクノパーク30周年記念フォーラムは、エレクトロニクスセンターのPRにおいて大きな効果をもたらしたと評価できる。テクノパーク管理にあたっては、外部団体や委託先と適切に連携を行い、雪への対応等を含め通年で適切な管理業務を遂行している。</p>			
A	B	C	D								
<p>財団が持つIT企業やクリエイター等とのネットワークを活用した事業と連携することで効果的な施設の運営を行っており、そのためのPR活動も積極的に行っている点を評価している。特にテクノパーク協議会等と連携して実施したテクノパーク30周年記念フォーラムは、エレクトロニクスセンターのPRにおいて大きな効果をもたらしたと評価できる。テクノパーク管理にあたっては、外部団体や委託先と適切に連携を行い、雪への対応等を含め通年で適切な管理業務を遂行している。</p>											

(5)施設利用に関する業務	▽ 利用件数等	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27実績</th> <th>H28計画</th> <th>H28実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">会議室</td> <td>件数(件)</td> <td>435</td> <td rowspan="4">26.3%</td> <td>394</td> </tr> <tr> <td>稼働率(%)</td> <td>24.7%</td> <td>22.5%</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">研修室・講堂</td> <td>件数(件)</td> <td>287</td> <td>304</td> </tr> <tr> <td>稼働率(%)</td> <td>32.7%</td> <td>34.7%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>27.4%</td> <td></td> <td>26.6%</td> </tr> </tbody> </table>				H27実績	H28計画	H28実績	会議室	件数(件)	435	26.3%	394	稼働率(%)	24.7%	22.5%	研修室・講堂	件数(件)	287	304	稼働率(%)	32.7%	34.7%	合計	27.4%		26.6%	<p>昨年まで自社の建て替え工事期間、会議室をよく利用していた企業があったが、工事完了により利用がなくなった。その影響が大きかったものの、予約状況をインターネットで確認できるようにし利便性向上を図ったことなどから、辛うじて計画を上回る稼働率を達成した。</p> <p>今後も市内全域及び市外企業の利用を増やすため、インターネットを媒体として積極的に施設のPRを行っていくとともに、技術開発室B(ウェットラボ)への入居者増による稼働率増を目標に、当施設の入居に係るPRも積極的に行っていくが、H29年度は大規模修繕のため、長期間、会議室等の貸し出しが行えないことになる。</p>	A	B	C	D
		H27実績	H28計画	H28実績																												
会議室	件数(件)	435	26.3%	394																												
	稼働率(%)	24.7%		22.5%																												
研修室・講堂	件数(件)	287		304																												
	稼働率(%)	32.7%		34.7%																												
合計	27.4%		26.6%																													
	<p>▽ 不承認0件、取消し0件、減免51件(会議室51回、研修室0回、講堂0回)、還付0件</p> <p>▽ 利用促進の取組</p> <p>自主事業との一体的な連動を図り、IT関連研修を積極的に誘致したほか、人材活用事業としての各種ワークショップ、ソフトウェアの検証、実証実験等を行う札幌イノベーションセンターの利用促進を図り、企業間の連携に基づく技術者コミュニティの形成に力を注ぐことで、この施設の持つ特性を最大限に活用し、利用の促進を図った。</p>	<p>H28年度計画については、周辺に立地する企業における状況変化がある中で昨年度実績は下回ったものの、計画を上回ったという点において評価している。H29年度は改修工事のため会議室の利用ができなくなり、これまで会議室を利用していた方々にはご迷惑をおかけすることになるが、理解を得ながら管理業務を進めていきたい。</p>																														
(6)付随業務	▽ 引継ぎ業務 (前回から継続指定のため、引継業務なし)				A	B	C	D																								

2 自主事業その他

▽ 自主事業

ア IT産業における人材・企業の育成

IoT、ビッグデータ、AIといった先端技術の活用による「第4次産業革命の到来」に向けて、新しい基幹技術や新しい開発手法、新しい開発言語に対応する技術研修会や技術イベントを実施して、札幌の技術者に先端的なIT技術に触れる機会を提供し、新技術にも即応できる高度なIT人材の育成と集積を図った。

また、受託開発型ではなく、ユーザのニーズや技術トレンド、社会情勢を的確に捉えて、企画・提案型で自ら顧客に売り込みがかけられる人材の育成を行い、IT企業の高度化を推進した。

(ア)ビジネスマッチング・交流会向け実践研修の実施 (IT活用ビジネス拡大事業)

市内IT企業と他産業企業との連携促進を目的に開催するビジネスマッチング・交流会の開催に向けて、IT企業を対象にプレゼンテーションスキルや業界研究など、実際の営業活動、受注に結び付くような実践的な研修を行った。

H28年度は、「健康・福祉」と「観光」分野を交流会の対象産業としてカリキュラムを設定。なお、交流会参加登録企業だけを対象としたカリキュラムだけでなく、一般公開講座も開催した。交流会参加登録企業6社、延べ参加者数は65名であった。

(イ)ITイノベーション研究会の開催 (IT企業高度化推進事業)

札幌の地場IT企業等をメンバーに、時代の先端的な技術、イノベーションを起こす新技術をフォローして、それらに関する研究会や勉強会、セミナーを開催した。全3回開催し、延べ参加者は218名であった。

(ウ)札幌イノベーションセンターの運用等 (ITイノベーション推進事業)

市内IT企業の新技术を応用した新しいサービスモデルの創出や、必要とされる人材の育成を目的に整備された札幌イノベーションセンターを運用するとともに、今後注目すべき新技術や新サービスの調査や実践的な研修等を行った。

- ・札幌テクノパーク30周年記念フォーラムの開催：参加者169名
- ・ベトナム企業との商談会をホーチミンで開催：市内IT企業5社参加

- ・サイバーセキュリティリテリシーセミナーの開催：参加者139名
- ・市内IT企業向け実践的セミナーの開催：2回

(エ)最新技術者育成研修会の開催 (IT企業高度化推進事業)

IT技術者によるコミュニティ形成を通じた技術力高度化(アプリ開発等の専門技術の導入)の研修「サッポロクリエイティブキャンプ」を開催した。

全10カリキュラムを開催し、延べ参加者数は270名であった。

札幌テクノパークに集積する企業群をはじめとした札幌のIT関連企業は、その大多数が中小企業であり、北海道内や首都圏の同業他社から発注されるシステム開発の下請け・孫請け業務(下流工程)を担っているのが現状であるが、アジアを中心としたIT新興国の台頭など、取り巻く経営環境の変化や、景気の動向に左右されやすく、また開発プロジェクトの上流工程を担い、IT企業の中核を成すような人材も育ちにくいことから、こうした構造からの脱却が急務となっている。

一方、従来のITは、既存の産業のビジネスの効率化を主に追及してきたのに対し、今日では、ITはIT関連産業だけではなく、他産業・分野との融合によってイノベーションを起こし、新たなサービスやビジネスを創造する役割を担いつつあり、このような異分野とITの融合領域においてイノベーションを創出し、新たな製品やサービスを生み出すことができる人材の育成が喫緊の課題であるとされている。

A	B	C	D
			さっぽろ産業振興財団は、札幌市エレクトロニクスセンター開設時から施設管理を行っており、札幌市テクノパーク内の企業のみならず全市のIT企業とも密接なネットワークを有している。また、IT産業のみにとどまらず、他産業企業とIT企業との連携促進を目的とした事業についても積極的に取り組んでいる点を評価している。
			IT産業においては技術革新のスピードが速く、近年ではAI(人工知能)やIoTなどといった先端技術の活用が進んでおり、そのような中で市内IT技術者の技術力向上に関する取組みは今後も重要なものである。さっぽろ産業振興財団は地方都市である札幌市においてIT産業のトレンド技術や知識を学ぶ機会をニーズを踏まえ効率的かつ安定して提供しており、施設の設置目的に寄与する取組や工夫が行われていると評価している。

イ IT企業に対する最新技術情報提供

IT企業が必要としている情報には、技術セミナーや技術イベントの開催情報、最新IT技術関連の情報、他産業における業界の動向やIT導入の成功事例など、多くの分野があることから、当財団が主催しているものに限らず、公的支援団体を主体とした、当財団が持っているネットワークを活用して、広く支援情報を収集し提供した。

また、札幌テクノパークの立地企業、当財団の支援事業で登録した会員企業など、当財団の持つIT企業のネットワークを活用し、Webページや会員メーリング・リストなどを活用して、支援情報を広く周知・広報し、有用な情報に接する機会を提供した。

(ア)「さっぽろ企業情報提供センター」の運用 (IT企業高度化推進事業)

さっぽろ企業情報提供センターは、札幌のIT企業の情報をデータベースに収録しているIT産業振興の基盤となるシステムである。本システムにより、市内IT企業に対し、最新技術に係る研修やセミナーの情報を提供するとともに、市内IT企業の特色や得意とする分野、製品等の情報の充実化を図り、IT企業と他産業のユーザ企業との連携を促進した。

H28年度末における、さっぽろ企業情報提供センター会員企業登録数は246社である。

(イ)最新技術普及促進イベントの開催 (IT企業高度化推進事業)

市内IT技術者を対象としたイベント「Developers Festa Sapporo 2016」を開催した。内容は、最新の技術動向、開発手法、プログラム言語等を紹介するセミナーや実践的なワークショップであり、参加者は273名であった。

ウ 他産業に対する情報提供

IT技術の利活用に関する啓蒙・普及セミナーを実施し、他産業が持つIT化の潜在ニーズの掘り起こしを図り、希望者には、ITコーディネータ等の専門アドバイザーを派遣する等、IT投資のビジネス・プラン策定に係る支援をした。

(ア)IT利活用拡大セミナー (IT利活用ビジネス拡大事業)

他産業に対して、IT利活用について事例を取り入れて紹介し、その導入を促進するセミナー「札幌イノベーションセミナー」を開催した。また、IT利活用促進事業費補助金の公募説明会においても、本セミナー事業の一環でIT利活用事例を紹介することにより、補助金の活用を促した。

全3回開催し、延べ参加者は403名であった。

エ IT企業と他産業におけるマッチング機会の創出

IT企業と他産業の間でのビジネス・マッチング会等を開催し、IT化の開発パートナーとなるIT企業を紹介する場を設定するほか、経営戦略に基づいたITの利活用を促進するIT化投資に対する補助等、資金的な支援援助も実施した。

(ア)ビジネスマッチング・交流会の開催 (IT利活用ビジネス拡大事業)

市内IT企業とITの利活用を検討している他産業企業とのマッチング交流会を開催した。開催にあたっては、ITコーディネータの支援を経て実施した。

全2回開催し、各回IT企業3社に対し、健康・福祉分野の回ではユーザ企業40社、観光分野の回ではユーザ企業20社であった。

このような状況を踏まえ、当財団では、市内IT企業の新製品やサービスの創出促進や、受注機会の拡大により札幌のIT産業の活性化を図るため、平成26年度に発足の「札幌市ITイノベーション研究会」の活動等により、新しい技術やサービスに係る人材育成や、ビジネスモデルづくりの支援を実施するほか、IT企業に対して、積極的に他産業企業とのマッチング・交流を図る機会を提供するなど、財団としての特性を十分に生かし支援を行っており、こうした取り組みは、市内IT関連産業の活性化に大きく寄与したと考えると、財団としての特性を十分に生かし支援を行っている。

さらに、少子高齢化による労働人口の減少といった社会構造の変化、グローバル化の進展といった時流、AI、ビッグデータ、IoT、フィンテック、ブロックチェーンといった新しい技術やサービスの台頭によるマーケットの急速な変化の中で、IT企業に求められる役割・人材も大きく変化していくことから、本事業での取り組みが益々重要となる。

(イ)IT利活用促進事業費補助金の交付 (IT利活用ビジネス拡大事業)

市内中小企業のIT投資に対する補助制度「IT利活用促進事業費補助金」により、他産業企業のIT利活用の促進のほか、市内IT企業のビジネス拡大を図った。21件の応募の内、5件の案件を採択し補助金を交付した。

また、本補助金申請に係る他産業企業からのIT利活用等の相談対応については、ITコーディネータと連携し、10件の相談対応を行った。

(ウ)IT企業とバイオ企業との連携推進 (IT×バイオ連携推進事業)

札幌市内のIT企業と、食・バイオ関連企業との連携促進による、新たなビジネスの創出とIT企業の受注機会の拡大を目的に、連携に向けた情報交換や研究を行うビジネス検討会やバイオ企業の視察会、視察先企業に対する提案交流会を開催したほか、ウェットラボ入居企業を対象とした研究開発に係る補助金の交付などを行った。

- ・食・バイオ関連企業のヒアリング調査:9社10回
- ・食・バイオ関連企業視察の事前勉強会:2回 IT企業延べ12社参加
- ・食・バイオ関連企業2社の視察会:IT企業延べ18社参加
- ・視察会後の訪問企業へのプレゼンテーション:IT企業2社参加
- ・補助金の交付:研究開発補助1件

オ その他自主事業

(ア)テクノパーク協議会運営

会員が相互に協調し、札幌テクノパークにおける団地機能の増進及び会員の交流を深めることによって業務環境の向上を図ることを目的としている、札幌テクノパーク協議会において、事務局業務を務めた。

具体的には、定期総会、賀詞交歓会などの開催にあたって事務局業務を担当し、総務・広報・交流・環境の各委員会に参画した。

(イ)郵便切手類販売

利用者の利便性を高めるため、日本郵便株式会社の郵便切手類販売所として、切手、官製ハガキ、現金書留封筒、印紙の販売と、郵便差出箱の管理を行った。

▽ 市内企業等の活用、福祉施策への配慮等

業務統括運営計画書による第三者への委託を含め、業務委託及び物品購入などについて、札幌市内に本社、支社、事業所などを置く企業を優先して活用した。また、冬期間の除排雪については、緊急性を要する機会が多いことから、センター最寄の札幌市内の業者を優先的に活用した。

3 利用者の満足度

▽ 利用者アンケートの結果

実施方法	入居者、施設利用者にアンケート用紙を配布するとともに、食堂・アンケート投入箱横にアンケート用紙を置き、1階多目的ホールに設置したアンケート投入箱で回収した。
結果概要	(1回目) <総合的な満足度> 施設に対する総合的な満足度は74%であった。 「不満」と回答した人の理由については、「利用申込み手続きが面倒」「貸出備品の種類が不十分」といったものが主だった。 <職員の待遇> 職員の待遇に関する満足度は100%であった。 (2回目) <総合的な満足度> 施設に対する総合的な満足度は55%であった。 「不満」と回答した人の理由については「利用申込み手続きが面倒」「備品が古い、揃っていない」といったものが主だった。 <職員の待遇> 職員の待遇に関する満足度は79%であった。
利用者からの意見・要望とその対応	トイレや空調等、設備に関する要望については、大規模修繕工事に対応予定であることを周知した。 喫煙室の時計設置要望など、すぐに対応できるものには、すぐに対応した。

施設に対する総合的な満足度の評価が低下した。アンケートの回答数自体が少なかったが、立地や施設の老朽化に伴うハード面の不満が大半を占めていた。しかし、指定管理者として改善できる箇所は早急に改善し、さらなるサービスアップを図っていききたい。

A	B	C	D
要求水準に達しない項目が見られる。備品や施設面など指定管理者では対応が困難なものがある一方、会議室予約のインターネット化などの導入により改善を図った部分へも不満が出ており、さら改善が可能な部分があるかどうかなど引き続き検討いただきたい。			

4 収支状況

▽ 収支

項目	計画	決算	差
収入	135,126	114,571	▲ 20,555
指定管理業務収入	72,287	71,993	▲ 294
指定管理費	63,786	63,786	0
利用料金	8,501	8,207	▲ 294
その他	0	0	0
自主事業収入	62,839	42,578	▲ 20,261
支出	134,411	111,412	▲ 22,999
指定管理業務支出	71,572	68,834	▲ 2,738
自主事業支出	62,839	42,578	▲ 20,261
収入-支出	715	3,159	2,444
利益還元	0	0	0
法人税等	0	0	0
純利益	715	3,159	2,444

▽ 説明

- ▼ 利用料金収入は、会議室・駐車場の利用が前年より減少し、計画より249千円の減となった。
- ▼ 指定管理業務支出は、光熱水費の削減等、効率的な施設の管理及び事務の執行に努めたことなどから、計画より2,738千円の減となった。
- ▼ 自主事業は、ITxパイ連携推進事業で22,000千円の補助金交付の計画だったが1,406千円に留まるなど、収入・支出ともに計画より20,261千円の減となった。
- ▼ 収支は、差引き3,159千円(計画より2,444千円の増)の差額が生じた。

利用料金収入については、昨年まで自社ビルの建て替え工事期間、会議室と駐車場をよく利用していた企業があったが、工事完了により利用がなくなり、その影響が大きく、計画値に届かなかった。引き続き、技術開発室の入居率向上と、入居企業以外の会議室等の利用率向上を図ることにより、利用料金収入の増加を目指していく。支出については、効率的な施設の管理に努めたことなどから、計画を下回る執行額となった。引き続き、効率的な施設の管理と事務の執行に努め、可能な限り経費の削減を図るよう努力をしていく。

A	B	C	D
利用料金収入は計画に届かなかったものの、効率的な施設管理により支出を抑えられたことは評価できる。H29年度は改修工事による会議室利用の制限による収入への影響が発生するため、継続的な管理業務効率向上による収支改善に期待している。			

＜確認項目＞ ※評価項目ではありません。		
▽ 安定経営能力の維持 効率的な事務執行により支出を抑えることにより、収支は安定している。	今後とも効率的な事務執行を行っていく。	適 不適
▽ 個人情報保護条例、情報公開条例、行政手続条例、オンブズマン条例及び暴力団の排除の推進に関する条例への対応 個人情報保護については、財団の保護規程により、適切に行っている。その他、各条例については、対応を求められた際に、適切に対応を行うこととしている。 協定に関する契約(第三者への委託、物品調達等)について、暴力団員や暴力団関係事業者を相手に契約を行わなかった。	事例が生じた場合には、適切に対処していく。	適 不適

Ⅲ 総合評価

【指定管理者の自己評価】	
総合評価	来年度以降の重点取組事項
<p>エレセンの管理業務においては、関係機関と連携をとりながら円滑に事業を進めており、施設の老朽化が進む中でも大きなトラブルなく運営を行えるという点で評価できる。また、昨今施設の稼働率が低迷してきた中でも、ウェットラボへの入居や会議室の予約状況をインターネットで確認できるようにして利用しやすくするなどの取組で、一定の成果が現れてきており、今後も、多様な手法を用いた積極的な誘致活動により施設の稼働率が改善されることを期待している。</p> <p>自主事業については、管理業務との連携による稼働率向上の面からも非常に重要である。これに関しても、時代の変化に合わせた技術トレンドを取り込むことで、市内IT企業の高度化、他産業の連携による新たなビジネスの創出に努めるなど、IT関連産業等の振興に寄与していると評価しており、今後の一層の進展に期待する。</p>	<p>平成29年度・30年度の2か年にわたり大規模修繕を行うことになるが、今後も、適切な施設管理を行うとともに、市内IT関連産業のさらなる振興のため、IT産業の高付加価値化や他産業との連携の促進に向けた取り組みや、異分野とITの融合領域においてイノベーションを創出し、新たな製品やサービスを生み出すことができる人材の育成、ITに関する新しい技術やサービスに対応した取り組みの実施など、財団の特性を生かした自主事業に組み、エレセン運営による効果を最大限に高めていきたい。</p> <p>また、引き続き、札幌市経済観光局とも連携をしながら、様々な手段により施設の積極的なPRに努めるとともに、特にウェットラボの入居対象である食・バイオ関連企業に対して重点的なPRを継続して実施し、稼働率向上のため施設の利用促進を図っていきたい。</p>

【所管局の評価】	
総合評価	改善指導・指示事項
<p>エレクトロニクスセンターは開設から30年が経過し、施設の老朽化が進んでいるが、不具合発生に対する適切な修繕等業務、および効率的な事務執行など、これまでの管理ノウハウを活かしながら適切な運営ができていると評価している。駐車場等の利用料金の収入は計画を下回ったものの、施設稼働率に関しては計画を上回っており、今後の改修事業がある中でも可能な限りの稼働率向上を期待している。</p> <p>自主事業については、目まぐるしく進化を続ける情報産業の中にあり、経済情勢の変化に柔軟に対応した事業展開が求められている。これに関しては、エレクトロニクスセンターの活性化につながるような事業等が展開されており、本市IT関連産業等の振興など設置目的の達成に寄与する事業成果を挙げていると評価している。</p>	<p>管理業務においては、平成29年および30年に行われる大規模改修工事により利用者に対する不便が予想される。そのため、これまで利用者と培ってきた良好な関係を活かしながら、必要な説明や調整を行い、工事の間においても施設運営が円滑に進むような管理を行うこと。また、監査における指摘事項については今後の再発防止に努めること。</p> <p>自主事業については、IoTやAIといった先端技術の動向を捉えながら市内IT関連産業の振興を図るとともに、札幌テクノパークの利点とさっぽろ産業振興財団が持つネットワークを効果的に活用し、「札幌市まちづくり戦略ビジョン」や「札幌市産業振興ビジョン改定版」に掲げる、IT産業の、またITと他産業との連携による新たなビジネスの創出や高付加価値化に貢献する事業を推進していくこと。</p>